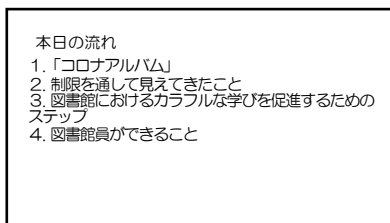


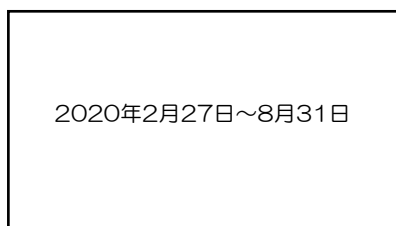
1



2



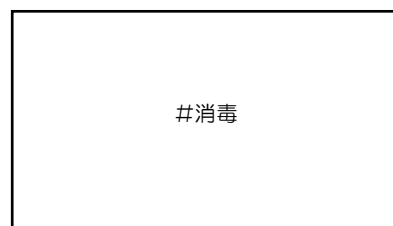
3



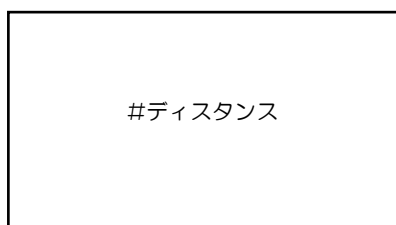
4



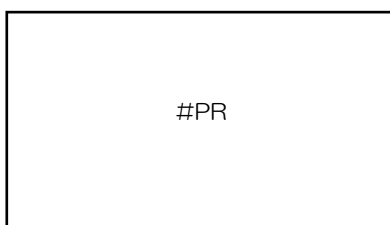
5



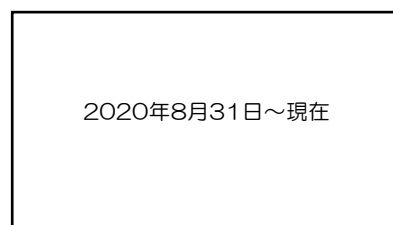
6



7



8



9

2 制限を通して見えてきたもの

10

オンラインonlyの限界

11

図書館GoogleClassroomの開設



カーリル蔵書検索サービスの活用
郵送貸出&リクエストのメール受付
情報リンク集
etc.

12

オンラインだからアクセスする人数

-

オンラインではアクセスしない人数

=

± 0 or -

13

リアルで十分使われていなかった
学校図書館は、オンラインでも
使われない。

14

リアルでOPACを使わない生徒は、
オンラインでもOPACを使わない。

15

リアルで広報誌を読まない生徒は、
オンラインでも広報誌を読まない。

16

（図書館好きの）教職員は、
スマホを使わない。

17

（それ以外の）教職員は、
図書館に関心がない。

18

リアルオリエンテーションは、
やはり効果がある！

オンラインツールをリアルで紹介すると、
効果が倍増する。

ハイブリッドが一番！

19

3 図書館におけるカラフルな学びを
促進するためのステップ

20

「カラフルな学び」

多様なやり方で何らかの気づきを得
ること、また変化すること。

21

学びの要素

楽しさを感じられる活動

刺激や手助けをくれる他者の存在

環境に自ら働きかける意欲

22

図書館におけるカラフルな学びを促進する
ためのステップ

- 1) ポリシーを見直す
- 2) 環境を見直す
- 3) 生徒や教職員に伝える
- 4) 生徒や教職員や地域の人と協働する

23

図書館におけるカラフルな学びを促進する
ためのステップ

- 1) ポリシーを見直す
- 2) 環境を見直す
- 3) 生徒や教職員に伝える
- 4) 生徒や教職員や地域の人と協働する

24

1) ポリシーを見直す

目的 この図書館は何のために有るのか？
状況 この図書館はどのようなコミュニティの
一部なのか？

バランス 状況に合わせて目的を追求す
るにはどうしたらいいのか？

理論 ポリシーを支える理論はあるか？

25

1) ポリシーを見直す

目的：この図書館は何のために有るのか？

「生涯に渡って学ぶ権利があることを生徒に知らせ
るため」

26

1) ポリシーを見直す

目的：この図書館は何のために有るのか？

「目標が違うと全てが違ってしまおう」
斎藤道雄 治したくない ひがし町診療所の日々、みすず書房、
2020.

27

1) ポリシーを見直す

状況：この図書館はどのようなコミュニティの一部なのか？

「神奈川県横浜市にある、進学重視だが生徒の学力は高くなく、管理が（やたらと）厳しい大規模公立高校」

28

1) ポリシーを見直す

バランス：状況に合わせつつ目的を追求するにはどうしたらいいのか？

「まずは、図書館に入ることへの抵抗を減らす」

29

1) ポリシーを見直す

理論：ポリシーを支える理論はあるか？

さまざまな学習理論 中でも、
レイヴ&ウェインガー「正統的周辺参加」
ロジャー・ハート「参画のはしこ」
上田信行「フレイフル・ラーニング」

松岡正剛「編集」

the Beatles

30

1) ポリシーを見直す

私の学校図書館運営ポリシー：
学校図書館法に基づき、学校図書館は全ての生徒が使う権利がある

私の立てる問い：
この権利を保障するために何をすべきか？

31

2) 環境（空間・メディア・テクノロジー）を見直す

ポリシーを体現する環境
ポリシーを実現させる環境

32

#空間

33

メイカースペース

34

#メディア

35

意味を媒介するもの全て

36

「人」をメディアとして意識化する

37



38

飛ぶ図書委員会

39

3つの「つ」

40

つかう
つれてくる
つくる

41

「飛ぶ推し」

42

ブランディング

親みを持つ人が増えることで、
図書館に集まる人メディアが
多様になることを目指す

43

#テクノロジー

44

基本のインフラ

45

授業とは、生徒が図書館と出会う
最強の機会

46

その機会を最大限に活かすためには、
ポリシーを体現する環境が用意され
ていなければならない。

47

「学校図書館は、授業で調べ物に
行ったくらいですね。」

法政大学司書教諭課程受講学生

48

4 図書館員ができること

49

1) イメージを変える

「本」
「読書」
「図書館」

50

「読書」について

多数派の教職員と生徒の認識

「本を読む」特に、小説・物語などのフィクションが対象

司書の認識

多数派：「文献を読む」あらゆるジャンルが対象

少数派：「あらゆるメディアのコンテンツを読む」

51

「読書」認識と「図書館の機能」認識の関係
狭い「読書」認識の教職員や生徒の認識
小説を借りる機能のみ

司書の認識

多数派：多様な機能の一つとして、文献を提供し、
読むことを支援する機能がある

少数派：多様な機能の一つとして、必要とされる
メディアのコンテンツを提供し、複数のリテラ
シーを支援する機能がある

52

「読書」の狭い認識

「図書館は小説を買わずに借りてまで
読む人だけのための場所」という認識
を再生産

53

「俺、本は買う派だから

(図書館カンケーねー)」 高校3年男子

54

「本読めないから（図書館カンケーねー）」
しばしば耳にする生徒の声

55

「こんなにマンガがあるなんて、
早く言ってよ！」卒業式当日の生徒

56

2) 経験を提供する

モノの提供は基本。
コトを提供する。

57

3) 生徒はVIP 教職員は
VIPを満足させるための人材
少数派を厚遇する。
個を大事にすると多様になる。

58

4) 観察→試行→反省の
スパイラルを繰り返す
インタビューとアンケートだけでは
必要なデータは得られない。

59

「便利になってみて初めて、
それまでは不便だったって
気づいたんだよね。」
昨年度の3年生

60